

今年は新型インフルエンザのニュースが絶え間なく流れました。又胸を抉られるような悲しい事件・事故等を思い、そのご家族の心が癒されますように祈っております。又、心が暖かくなるニュースを見ると、ホッとして無性に嬉しくなります。一寸した心遣い、そして一歩譲る心を忘れず、残り少ないこの年を、より良く過ごしましょう。

編集員一同

先日、長女と婚約者のT君と私達夫婦四人がレストランで夕食を取っていた時のことです。二人は三週間前に婚約したばかりで、私達もT君のことをもっと知りたくて食事に誘ったのです。実は彼の母教会は大阪にあるプリマス・ブレザレンという聞き慣れない群れの集会です。私も婚約式で初めて、その教会に行ったのです。彼が神さまの導きで、昨年から大阪聖書学院で学ぶようになり、来年の四月には娘と結婚して、神学生として学びを続けながら寝屋川の小さな教会の責任を持つことになっていきます。そこは他の新興宗教の根強いところでもあり、伝道が難しいところだと聞いていましたので、彼がこれからどのようにそこで伝道していくのか、話しが教会の伝道のことになりました。その流れの中で、私は自分が初めて教会に行き始めた時のことを、彼に次のように話し始めたのです。「それは四〇年も前のこと、

奇しき道

紀南教会牧師 上山 耕司

私は岡山の田舎から西も東も分らない大阪に出て、大学に通っていた。親元を離れ、その束縛から解放され、これからは何でも自分の思うように、自由にやれ

いた。丁度、そのような時、兄は電車の駅で一枚のトラクト(教会案内)を拾って、小さな教会に行き始めていた。実は、兄は私より三年早く大阪に出て、すでに大学を卒業して、就職をしていたのだが、そこを辞め定職にも就かず、賭け事に手を出していた。色々、悪いこともしていたのである。か、寝ている時よくうなされていた(私と同じ宿)。彼は拾ったトラクトから教会に通い出し、早々とバプテスマを受けた。十字架にかかって下さったキリストの罪の赦しが心にしみこんだのだ。それまでキリスト教のキの字も知らない私達だった。私は兄の変わり様を見て、教会に行ってみようと思つたようになり、生まれて初めて教会に行った。

小さな畳の部屋で何人かの女性を中心になって聖書の話しをし、証しをしていた。『誰でもキリストにあるならその人は新しく造られたものである。見よ、全てが新しくなった。』この聖書の言葉が私の心を刺した。私もバプテスマを受けた。皆熱心で一途だった。家で訪問をしたり、とても一生懸命伝道をしていた。彼女達は大阪にある教会から出て、自分達で集会を始めていた。」とそのあたりまで話していた時、T君が

した。後でT君が「両親に確かめたところ、その女性達の名前も一致して、確かにそうだと云つことが分かったのです。娘の婚約者は私のルーツと同じだったのです。四〇年後に、娘の婚約を通して、このような不思議な繋がりが判明した事は、将に神の奇しき導きとしかいえないようがあります。ただただ驚くばかりです。

残念ながら、現在、その教会はありません。リーダーの女性が教会を売り払って、どこかに行つてしまつたそうです。何はともあれ、私達が今日あるのは、ここでのキリストとの出会いがあったからです。一枚のトラクト、このような教会をさえ用いて、病める私達兄弟を捕らえ、共に良き家庭を与えて下さった神の愛の御業に深く感謝するものです。



コスモスの咲く頃に

父の思いで

最近、高校の同級生と月の内、数回定期的に会う機会があり、その度、彼女の手柄に魅せられて、沢山のパワーを買っています。彼女は本宮の地でカフエを始めて三年目。やっと自分の描いていたお店が形になってきたという。

も、思い出す事もあまりなくなっている昨今だったの自分でも驚いた。あれは私の結婚が決まった年の春だ。父は「今年はコスモスを植えるぞ」と云つたのである。大好きな花なのに父は「この花だけは勸弁してくれ」と云って一度も植えてくれなかった花だったのだ。父は土を耕し種を蒔き、日々丹精込めて育て始めた。この花の咲く頃に娘は家を出て行くのだ。その花を咲かせるために精を出して育てる父。父の精一杯の娘への饒たつたのに違いない。一日々を惜しみつつ育てたであろう父の心が今頃になってよく解るのだ。秋には大木のコスモスが育ち見事な花を咲かせた。結婚式の前日、妹と二人で写真を撮った。父のいる写真は一枚もない。お父さん、一緒に写そつ」と誘ってくれるのを待っていたのではなかったらどうか。

今自分の立場に立つて、その時の父との会話が再されればどんな会話がそにあつたらどうかと思う悔やまれてならないのだ。今頃になって気づくまで・・・時にかなわぬとをした為に美しくなるとなく、後悔と悲しみの花を見上げながら涙し父を偲ばねばならないのだ。

不思議な事に、あれは毎年咲いていたコスモス。今年是一本も芽が出なかったのだ。土壌が変わつた云つてしまえばそれまでも知れないが、主は、私に気付くまで咲かせ続けてくれて、その役目を終えたので取り去られたのだと思いたい。キッとそうなのだ。広場には咲く事がなく、つたコスモス。でも此かからは、いろんな場所で見かける事である。この花は、目のには気高く、優しく、ひととき美しく見える事